

国内マーケット

HKS

バイオ燃料を商品化

まずはレース用に年内にも

一般向け市販化へ一歩

エッチ・ケー・エス(HKS)は年内にも、カーボンニュートラル(温室効果ガス排出実質ゼロ)を見据えた植物由来のバイオ燃料を商品化する。生産は燃料メーカーと協業で行う。まずはレース車両用の燃料として供給する計画だ。同社が実施した評価試験では、通常の競技用燃料に比べて出力や燃費の向上が期待できる効果を確認したという。過酷な環境で使用されるモータースポーツで実績を積み上げ、将来的な一般車向けの展開につなげる考えだ。



CN燃料(コンセプト)

パシフィコ横浜(横浜市西区)で開催している「人とく」同社は独自のバイオ燃料「CN燃料」を紹介した。HKS

では一般的な競技用燃料の開発も手掛けている。この技術やノウハウを応用し、太陽光や風力などの再生可能エネルギーで植物を精製して造るバイオ燃料の研究を進めてきた。

HKSはアルコール濃度85%のバイオ燃料を供給する。これに使うバイオエタノールは、ガソリンに比べて揮発性が低い。そのため、燃え残った燃料がオイルに混じる「オイル希釈」が起きやすい特徴がある。同社はこうした課題に対し、主力のカスタマイズ事業で培ってきた技術やノウ

ハウも活用して開発に当たった。

また、出力を高めようとする、異常燃焼の発生リスクが高まり、エンジンにノッキングが生じる可能性がある。このため、最適なエネルギー密度が実現できるように成分

を調整した。エンジンのシリンダー内で点火してからピストンが最も高い位置に到達するまでのクランク角度を調べると、既存の競技用燃料と比べると約2度、市販のハイオク燃料とは約6度、出力や燃費の改善が見込める効果があったという。まずは高出力かつ耐ノッキング性能などが求められるレース用の燃料として供給するが、燃料の燃やしも含めて提案していく方針だ。

バイオ燃料をめぐるのは、経済産業省が2030年度までに、最大濃度10%の低炭素ガソリンの供給開始を目指しており、国内でも利用拡大が見込まれている。

【2025年5月23日付 日刊自動車新聞】